

キャラクター名  
平山 朔月

プレイヤー名

シンドローム	パロール オルクス		ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	16	性別	女
覚醒	素体	衝動	妄想	初期侵食率	41	%
出自	姉妹	経験	裏切られた	邂逅	家族	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	0	0	0	1		1	行動値	9
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	9
精神	3	1	0	1		5	戦闘移動	14
社会	3	0	0			3	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	5		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	4	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	4	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0	0			

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 噂好きの友人	
ストレンジフェイス	
コネ: UGN幹部	
"聖者の義左腕"	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
変異種: パロールP		N		
大罪の残滓: 強欲P		N		
〈親友〉伊織 綾P	友情	N	恐怖	
シナリオロイス: 伊織 愛P	尽力	N	隔意	
傘樹 志帆P	信頼	N	不安	
有須恵 蘭華P	友情	N	不信感	
十六夜 紅郎P	連帯感	N	憤懣	

最大財産P: 8    残り財産P: 6

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
赤方偏移世界	4	2	セット	視界	単体	自動		
効果: 対象の【行動値】+[Lv×2]。戦闘移動の距離+10m。								
斥力跳躍	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 飛行状態で戦闘移動。移動力+[Lv×2]								
アクティベート	2	4	マイナー	至近	自身	自動	Dロイス	
効果: [Lv×3]までのHP-分達成値上昇。								
コンセントレイト: パロール	2	2	メジャー	-	-	シンドローム		
効果: C値-Lv。(下限値7)								
黒の鉄槌	1	1	メジャー	視界	単体	RC		
効果: 「攻撃力: +[Lv×2+2]」の射撃攻撃。同エンゲージ不可。								
鋼の顎	2	3	メジャー	視界		RC		
効果: 攻撃力+7の射撃攻撃。装甲無視。シーンLv回								
魔王の腕	1	2	メジャー			シンドローム		
効果: 硬直付与。								
縛鎖の空間	2	3	メジャー	視界	単体	RC		
効果: 重圧、放心付与。シナリオにLv回。								
要の陣形	3	3	メジャー	-	3	シンドローム		
効果: 対象を3体にする。シナリオにLv回。								
未知なる陣形	1							
効果:								
魔神の心臓	3	4	メジャー			シンドローム	100↑	
効果: 命中時対象のダイス-[Lv×3]								
支配の領域	3	6	オート	視界	単体	自動		
効果: ダイスマ目を1つ「1」にする。シナリオにLv回。								
絶対支配	3	4	オート	至近	自身	自動	リミット	
効果: 《支配の領域》を[Lv+1]個に使用できる								

かつて、たった一人の肉親である姉に殺されかけ、人間不信を患っていた。表向きは明るく振舞っているつもりだが、日常生活、UGNの活動へのモチベはなく、何かに殺される時を待つために情性で生きていた感じ。ただ一つの願いは、姉と再会し、今度こそちゃんと殺してもらおうこと。その時に刺し違えられればラッキー☆

霧下市での問答者の十字架をめぐる一連の事件の際、凹みながらもかけがえのない親友を得、信頼の出来る上司、愉快的仲間たちと試練を乗り越えることで、人間不信、コミュ障が少し改善した。

ただし、完治までには至っておらず、自分にとって大事な人間というものとは認められるようになったが、他者にとっての自分が大事な存在になり得ると言う事をあまり認められずにいる。良く言って自己犠牲的な、自らの命を軽んじるような行動を取ることが多い。

今回の新古市への派遣は急に決まった話であり、霧下支部の復旧もまだ道半ばだったためかなり渋っていたが、朽木支部長の半ば諦めたような「いってらっしゃい」の言葉に、任務の早期達成を心に誓う。霧下支部では(たぶん)最年少の立場に甘えて好き勝手していたが、新古支部で“後輩がいる”という環境に若干戸惑いつつも責任感を感じていたりする。(コイツもコイツでカッコつけたがりな側面が多少なり)少し嫌な予感がしなくもないが、派遣社員として任務を全うして霧下の評判を上げつつ、とっとと帰りたい所存である。

(一応問答卓時のメモ)  
姉がいた。物つく頃にはUGNの施設(研究所?)に引き取られていた私にとっては、たった一人の家族で、大好きなお姉ちゃんだったんだ。今はどうしているかって?・・・知らないよ。周りの大人や私たちを殺してどっかに行っちゃった。・・・何故かこうして生き残っちゃったけど。ま、でもそれは昔のことだし。今は、霧下支部のみんなや友達のために、できること、頑張るよー(へらへら)

